

## 年末年始京都の風景

大晦日の京都はなんといっても八坂神社の「をけら参り」。「をけら灯笼」に灯された「をけら火」が夜を徹して焚かれる。その「をけら火」を火縄(吉兆縄)に点し、火を消さないように縄をくるくると回しながら持ち帰り、無病息災を祈願して神前の灯明や正月の雑煮を炊く火種とする新年の習わしが「をけら詣り」。燃え残った火縄は火伏せ(火難除け)のお守りとして台所に祀る。火縄は今年は800円。昨年は700円ではなかったか。ここでも



物価高騰の波は押し寄せている。参拝者というより観光客が多い「をけら参り」だが、今年は特に外国人観光客が多かった。火縄の扱いに慣れないので、回し方が乱暴。先に灯された火が周囲に飛び散って危ない。並んだ列の後ろのご夫妻は初めての京都の年末年始。この火縄はあとどうしていいのか分からない。ホテルに持ち帰ったあと、どうしようかと会話をしていた。当家は地下鉄で持ち帰るので、早々に火を消して地下鉄の車内へ。昔は特例でバスの車内で行く回して持ち帰ることが、この大晦日だけは許されていたという。のんびりした時代だ。

初日の出は今年は無理かと思ったが、一縷の望みをかけて例年通り北区船岡山の建勲神社へロードバイクでお出かけ。往路から時雨れてこれは無理だろうと諦めたが、案の定初日の出は拝めなかった。東山の曇り空に薄っすらと太陽の赤い色が見えたが、それで終わり。多くの人が集まっていたが、時雨が激しく三々五々解散して家路についていた。天気予報通りなので、納得の初日の出だった。二日はいいお天気だと聞いていたので、翌日に再チャレンジに行こうかと思ったが、やはり止めておいた。



初詣は平安神宮へ。例年は北野天神さんへ行くのだが、当家は受験生もいないので、北野天神さんはこの時期非常に混むので、平安神宮に宗旨替え。平安神宮は祭壇が広いので、一度に多くの参拝者が賽銭を投げ、参拝ができる。お守りも800円に値上げになっており、ここでも物価高を実感した。意外と外国人の参拝者が少なく、ほとんどが京都市内の人達。二礼、二拍手、一礼という作法は、ほとんどの人がわかっていた。お賽銭は、いつもながら5円。ご縁があるようにとの屁理屈だ。平安建都1100年を記念して造られた平安神宮

だが、相当建物は傷んできている。参拝を終わって、帰途はロームシアターの中にあるスターバックスで熱い飲み物を所望して列に並んでいるときに、大きく地面が揺れた。相当の時間揺れたので、ほとんどの人が地震だと気が付いた。すぐに携帯で臨時情報が流れ、時を置かず津波警報がアナウンスされた。女子アナの絶叫が何回も繰り返され、現地の緊迫感が耳から伝わってくる。災害の様子はその時点では分からなかったが、以後続々と惨状が報道されていく。被害が大きくならないように祈るばかりだ。地震は突然だから怖い。地震、雷、火事、親父だ。

